

## 事前意見・質問一覧

「都市マスタープランの概要・まちづくりの現状と課題」（序章・第1章）について

No.	委員	該当部分	意見・質問	回答・方針	反映
1	松浦	P4 (P18)	まちづくりの基本目標と分野別方針の関係性がわかりにくい。例えば、目標の2番目に「安全・安心・・・」があり、そこに対応すると思われる「都市防災」が分野別方針の5番目となっている。 順番を揃えるなど表現（説明）を整理すべき	ご指摘を踏まえ、表現内容や記載順について整理します。	
2	木内	P6	国立社会保障・人口問題研究所による人口の将来見通しでは、 <b>本計画の目標年次の令和12（2030）年には約16.2万人</b> 、20年後の令和22（2040）年には約14.1万人になると推計されています。 ←本計画の目標年次も入れた方がよいのではないか。	ご指摘のとおり、本計画の目標年次も記載しました。	○
3	木内	P10	・凡例「市街化区域」が切れている ・災害危険区域（急傾斜地崩壊危険区域）が凡例にあるが、本文は（）内の名称になっている	・切れている部分は修正しました。 ・「急傾斜地崩壊危険区域」に統一しました。	○
4	木内	P11, 12	・図面がぼやけていて字が読めないの で差し替えた方がよいのではないか。	基データは印刷物をスキャニングしたものであり、画質の限界がありますが、差し替えについて検討します。	
5	木内	P13	・市民アンケート調査の総数は表記した方がよいのではないか。	ご指摘を踏まえ、対象者数、有効回答数を記載しました。	○
6	木内	P19	・課題4の記述の意味が分かりづらいので、文章を簡潔に整理した方がよいのではないか。	文章を整理し、一文を簡潔にしました。	○

「まちづくりの目標・分野別方針」（第2章・第3章）について

No.	委員	該当部分	意見・質問	回答・方針	反映
1	木内	P22	基本目標1の文中の「郊外」という表現は若干曖昧で、下の文章とあわせるなら「市街化調整区域」が良いのではないか。	ご指摘を踏まえ、「市街地の縁辺部」という表現に修正しました。	○
2	友崎	P22	子育てについての視点を取り入れて欲しい。	ご意見を踏まえ、基本目標の記載内容について引き続き検討してまいります。	
3	木内	P24	『「コンパクト+ネットワーク」型の都市構造』より、立地適正化に合わせ、『各拠点の個性を活かした「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の都市構造』というのはいかがでしょうか（意見）	拠点（コンパクト）と軸（ネットワーク）のイメージをより象徴的に示すため、原案どおりとしています。	
4	友崎	P25	南部地域の記載がもっとあってもいいのではないか。	和田、弥富地区の公共施設等を集積したエリアについて、「地域拠点」として追加しています。	○
5	木内	P29	農村集落を維持するため→農村集落においては、既存の地域コミュニティを維持するため	ご指摘を踏まえ、修正しました。	○
6	木内	P30	旧城下町地区は鉄道駅周辺の商業地ではないのか、立地適正化を見るとJRと京成の間で双方に関係しているのでは。	旧城下町地区は、JRと京成のおおむね中間に位置する商業地で、用途地域内に駅を含まないエリアであり、駅前商業地とは異なる商業地として想定しているため、原案どおりとしています。	
7	木内	P30	各地域の玄関口にふさわしいまちなみの形成に取り組む→～ふさわしい景観の形成に取り組む	旧城下町地区などでの「まちなみ」という表現に合わせて「まちなみ」としています。「景観」と「まちなみ」の用語の定義について整理します。	
8	木内	P31	耕作放棄地や遊休化した農地は、地域コミュニティの維持・活性化につながるよう新規就農者などによる	耕作放棄地や遊休化した農地の利用促進については、農地そのものの活用が目的であり、地域コミュニティの維持・活性化に限定するものではないため、原案どおりとしています。	
9	松浦	P32	自然的土地利用の「農地、森林・谷津等」について、「農地」と「森林・谷津等」に分けられないか ※本文に合わせた表示	現状におけるこれらの土地利用は複雑に入り組み、簡潔な図示は困難です。この図は将来の土地利用の方針を示すもののため、図の見やすさを優先して原案どおりとしています。	
10	木内	P33	国道296号については、バイパスの整備などを近隣自治体との連携も含め、道路環境の	国道の整備は近隣自治体や国、県と連携して取り組むべきものと認識しています。ご指摘を踏まえ、国道51号と共通する内容のため、項目を加えました。	○

11	木内	P 33	道路の今日的な必要性→道路の <b>将来的な</b> 必要性	ご指摘のとおり、修正しました。	○
12	木内	P 33	鉄道事業者へ要望します→ <b>鉄道事業者と連携し、～サービスの充実に取り組みます。</b>	ご指摘のとおり、修正しました。	○
13	松浦	P 33 P 42	道路について整備や維持管理の取り組みがあるが、防災的な例えば保水等の水害対策としての整備方針などはないのでしょうか（バイオリテンション）。	現在、歩道の整備の際に可能な箇所について浸透性の高いアスファルトを使用しています。治水対策については、道路に限らず、多角的に研究を進めることとし、P42の風水害対策の部分にその旨を記載する方向で検討します。	
14	松浦	P 37 (P29) (P36)	市街地におけるグリーンインフラの要素を入れられないか 新たな緑を創設するなど積極的に取り入れる方針があっても良いのではないかと。 空き家の有効活用とあるが、空き地についても入れられないか。	市街地内の自然的な土地利用については、P29の住宅地の土地利用、P36の自然環境で記載しています。また、空き家・空き地の有効活用として、地域コミュニティ活動に資する活用を支援する旨を追記します。	○
15	木内	P 41	また、古いまちなみを活かし、 <b>既存の建物をリノベーションなどの手法を用い、</b> 落ち着いたものがある	ご意見を踏まえ、古いまちなみの活用の例示の形でリノベーションなどについて記載しました。	○
16	松浦	—	（会議資料としては）全体として新しい要素を強調表視した方が良く 現行から追加された部分や変更する部分が区別できると良い	現行計画から追加する要素について、本日の資料では黄色いラインマークをしています。	○